

:Sublima+(プラス)印刷コンテスト2013総評

「作品に対する思いが企画力・営業力・総合力に繋がる」

◆審査員:

北島 耀 氏 (文化学園大学 名誉教授、日本色彩
学会会員、東京商工会議所色彩検定
委員他)

相馬 謙一 氏(日本印刷技術協会 専務理事)

田中 肇 氏 (前東京都印刷工業組合連合会 特別
顧問、たなか経営研究所所長)

松石 浩行 (日本アグファ・ゲバルト株式会社 代
表取締役社長)

知識 三富 (日本アグファ・ゲバルト株式会社 プリ
ンティングアドバイザー)

◆コーディネーター:

東條 好光(日本アグファ・ゲバルト株式会社)

国井 忠男(日本アグファ・ゲバルト株式会社)



写真左より松石、田中氏、北島氏、相馬氏、知識、国井

2013年の「:Sublima+(プラス)」コンテストは、全49点の応募作品がありました。

審査員からは「今年は出品数も増え、しかも昨年より一段とレベルアップしている素晴らしい作品が多い」という意見がまず出ました。

審査会では①作品の印刷技術そのものを審査する「印刷技術賞」、②「スプリマ」を使用したことで獲得したお仕事の作品や2種類以上の商品となったものを対象とする「企画賞」、③オフ輪で「スプリマ」を使用した作品を対象にした「高品質ロングラン賞」、④環境負荷軽減アイデアによる作品を対象にした環境賞、⑤「速乾印刷技法」がお仕事に活かされた「速乾印刷賞」、⑥インクジェット製品の6つカテゴリ別に、技術力、商品力、企画力の評価に加え、審査員の総合的な印象点の合計ポイント数の上位作品を入賞作品として選考いたしました。

年々、全体の印刷技術レベルが上がっていて、入賞作品は印刷技術だけでなく、製版から製本や加工まで含めて評価が高い作品となりました。さらに審査をする中で、応募作品に対して製作者やクライアントのコメントが多く寄せられた作品は、印刷会社が同じような熱い思いをクライアントに訴え、その結果が作品に表われたという企画力・営業力を感じることができました。その中で「THE AMBIENCE OF SPORTS “一瞬の恵み”」はスポーツ写真という一瞬の臨場感というカメラマンの思いをしっかりと受け止めて完成された作品だと思います。また、本コンテストでの受賞がきっかけで受注したという事も嬉しいエピソードです。「槍・穂高～空と雲のあいだに」は色分解から含めて技術の追求が素晴らしい作品となっています。「ヤブ原産業(株) VIEWS MATERIAL」は本コンテストにクライアントを最初から巻き込み、撮影から企画が始まったということは:Sublimaをクライアント側に認知してもらおう手段としてとても面白かったです。「Go!den Life」はオフ輪での速乾の効果の数値データと合わせて応募いただいた事で審査員にはインパクトがありました。「2013秋田竿燈まつり」の引き込まれるようなデザインや、インクジェットの性能をフルに引き出した「鼻-闇夜に聴こえる森の鼓動」などは強い印象が残りました。:Sublimaコンテストも9回目を迎え本当に全体のレベルが高くなり、甲乙つけ難い作品ばかりとなっています。敢えて言わせていただくと、作品としての総合品質力を上げ印刷の力を市場に知らしめるためにも、製版から、素材の選り方、紙目、製本・加工といった仕上がりまで考慮した作品を期待します。また、作品に対する思いやクライアントへの提案ポイントや効果などは是非詳しいご説明を添えていただきたいと思います。

最後に今回の:Sublima+印刷コンテストにご応募頂いた皆様方にあらためてお礼を申し上げます。